

着任挨拶

名古屋大学 大学院工学研究科
機械理工学専攻 機械情報システム工学分野
生体力学・人間機械工学講座
バイオメカニクス研究グループ

松本 健郎 教授



2016年4月1日付けで、田中英一先生の後任として、バイオメカニクス研究グループの教授に着任致しました。1960年に北海道・札幌に生まれ、高校まで過ごした後、東大に進んだものの、学部4年間はオーケストラで音楽三昧の暮らしでした。心を入れ替えて進学した修士課程では、精密機械工学専攻で人工臓器の研究に従事しましたが、人工臓器用の電子回路や機械部品の設計・製作やプログラミングが主の研究に飽き足らず、博士課程で北大・応用電気研究所の生体工学専攻に進みました。北大では自分たちで開発した人工心臓を自分たちでイヌに埋め込む実験に没頭し、生体工学実験の基礎を身に付けました。その後、北大で助手として採用されバイオメカニクスと出逢い、高血圧や動脈硬化と力学の関係を調べる研究を始めました。北大で助手を4年半、その間に、1年間ほど米国・ジョージア工科大学で細胞バイオメカニクスの実験技術を学び、その後、東北大学・機械電子工学科で講師・助教授を9年半務め、2002年に名古屋工業大学・機械工学科の教授として名古屋に赴任して参りました。名工大の14年間には、高血圧・動脈硬化と力の関わりを細胞レベルから明らかにする研究をメインに、基礎面では生物学者と受精卵内部の応力分布を明らかにする研究、応用面では肌年齢や動脈硬化度を調べる新たな機器の開発などを進めて参りました。そして、この度、ご縁がありまして、名古屋大学の機械理工学専攻に加えて頂いたという訳です。

定年まであと10年と残された時間は余り多くはありませんが、それにも関わらず採用して頂いたご期待に応えるべく、精一杯精進しようと思えます。東山会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。